



Gobohan News

発行: 真宗大谷派 常 入 寺
富 山 市 東 老 田 7 8 7 番 地
電 話 (076) 436-0816
F A X (076) 436-2766
携 帯 090-3764-3983
発 行 責 任 : 青 井 和 成

一切の有情はみなもって 世々生々の父母兄弟なり

この言葉は『歎異抄』と
いう書物の中に書きとどめ
られている親鸞聖人のお言
葉です。『歎異抄』という
書物は浄土真宗の中でいえ
ば一番読まれているものと
言っていていろいろな書
物です。私も何度も読んで
いる書物です。当然のこと
ながら私もこの言葉もよく
目にしているのです。しか
し先日この言葉が何故か私
の目の中に飛び出してきた
のです。今まで普通の言葉
だったのですが、突然あな
たはこういう生き方をして
いますかという私への問い
かけの言葉として浮き上
がって来たのです。

「有情」というのはいの
ちあるものという意味で
す。「世々生々」とは、生
きかわり死にかわりして生
を得た世ということでは
す。ですから生きとし生けるも
のはみんな生まれ変わって死
に変わっていくという流れ
でみていけばみんな父母兄
弟姉妹、家族なのです、と
いうことでしょうか。

家族というと、大概の方
は血のつながりで考えてい
きます。育ててもらったとい
うことで親子関係もありま
すが、親鸞聖人は血のつな
がりを大事にするのではな
く、いのちというもつと大
きな繋がりを大事にしてい
るのだと仰ら
れたかったことだと私はこ
の間ふと感じたのです。そ
してこの繋がりを大事にし
ていないことを知らされた
のです。私たち一人ひとり
がみんな家族と思えずに生
きているから戦争というも
のが起きるのだ。戦争が続
いている原因は私の中にも
あったと感じたのです。

先の大戦の時も「鬼畜米
英」といわれていたそうで
すね。アメリカやイギリス
に住む人たちは同じ人間で
ないと思わされてきたこと
なのでしょう。人を平気で
殺すことは容易ではないか
らこのように当時思わされ
てきたことだと私は思うの
です。

戦争によって亡くなって
行かれた方々は二度と戦争
を繰り返さないことを願
いましょう。親しい方を戦争で
亡くされた方もこんな思い
をもう誰にもさせたくない
と思われたことでしょうか。

「一切の有情はみなもつ
て世々生々の父母兄弟な
り」という親鸞聖人がお示
しくだされた言葉とは全く
かけ離れた生活を私たちは
している事実には気づかされ
続け、またそのことがとて
も悲しいことだと知らされ
続けていくことにおいては
じめて私たちに戦争のない
社会が生まれてくるのでは
ないでしょうか。

ほんこはん*


開催日 10月31日(金)午後2時より11月1日(土)午後4時まで
講師 松井勇さん(南砺市)
毎年毎年、絶えることなく勤められてきたほんこはん 親鸞聖人のご命日を縁として勤められてきたほんこはん ほんこはんが勤められてきた歴史の流れに乗りませんか?
*10月31日夜 おやこのつとよいByほんこさんをつとめます

ご命日の集い

9月28日
午後2時より

今期最終になりました。

皆さんで正信偈のお勤
めをしたあと、みんな
でお茶飲んでダラ話し
ています。気楽にお越
しく下さい。



南無阿弥陀仏

平和への誓い

わたしたちは、信じることができませんでした。
 69年前の8月6日、この広島に原子爆弾が落とされ、多くの尊い命が奪われたことを。
 5歳だった祖父は、「地獄のような光景が今も目に焼きついている。」と語ってくれました。

広島に育つわたしたちは、広島の被害、悲しみ、そして、強さを学びました。
 爆風により、多くの建物がくずれました。
 家や家族を失い、ふつうの生活がなくなりました。
 その中で、
 水道は1日も止まることなく、市内電車は、3日後には再び走りはじめました。
 広島は人々の努力によって、町も心も復興したのです。

悲しみや苦しみの中で、生きることへの希望を見つけ、生き抜いた人々に感謝します。
 当たり前であることが、平和なのだと気がつきました。

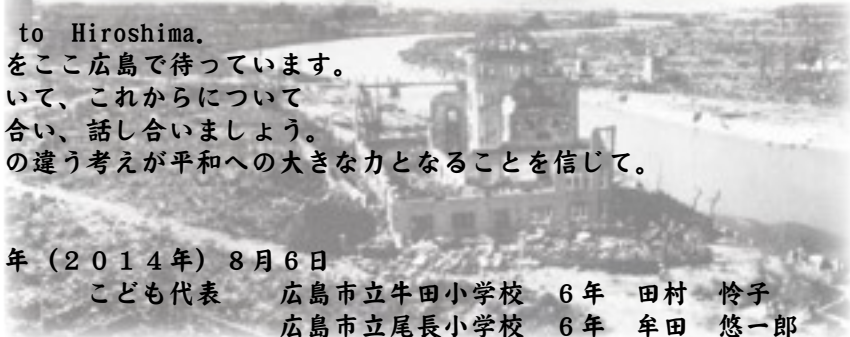
ある語り部の方には言いました。
 「小さなことから始めてほしい。」

わたしたちは、もう行動をはじめています。
 友達を大切に、優しく接しています。
 家族や被爆体験者から被爆の事実と平和への思いを聞いています。
 平和の思いを込めて、毎年千羽鶴を折り、慰霊碑に捧げています。
 平和とは何か自分で考え、友達とも意見を交流しています。
 平和について考えることで、仲間とつながりました。

わたしたちは、できることから始める勇気をもつことができました。

Welcome to Hiroshima.
 みなさんをここ広島で待っています。
 平和について、これからについて
 共に語り合い、話し合いましょう。
 たくさんの違う考えが平和への大きな力となることを信じて。

平成26年(2014年)8月6日
 こども代表 広島市立牛田小学校 6年 田村 怜子
 広島市立尾長小学校 6年 牟田 悠一郎



毎年お寺の掲示板や、寺報に載せていただいています。広島市の『平和への誓い』を本年も掲示させていただきます。いつも平和記念式典にて総理大臣や市長さんなどのスピーチを目にしてもピンとこなかつたり、難しかったりしますが、子ども達が時間をかけて作ったこの誓いの方が私は理解しやすい言葉ですし、またこの誓いが改めて私たちに平和について教えてくれると感じています。皆さんもこの思いを共有したくていつも掲示させてもらっているのです。今年は政府が集団的自衛権の行使を憲法解釈によつて容認しようとする動きが、お互いを尊重し、相手

きがあり、なおさら平和を守るって何なんだろう、そもそも平和って何なんだろう。そういうことをこの誓いを読みながら強く考えさせられました。平和とはなに、かという答えをみんなですぐに出すということより、それぞれがそのことを考え、お互いを尊重し、相手

第三回
 夏休み高岡であそぼう
 無事終了しました。
 皆様今年も金銭面での協力をお願いしました。福島のことも夏の保養事業である「第三回夏休み高岡であそぼう」を去る8月3日より8日まで開催し、無事に終えることができました。皆様方がご理解協力いただいたからできたことだと思っております。本当にありがとうございました。

親御さんを含め19名の方が福島県からお越しくださいました。立山山麓スキー場でジツプラインを楽しんだり、また山名滝を見に行ったりして富山県を堪能していただきました。初日はみんな楽しそうに帰る時にみんなキラキラと目を輝かせていました。短い期間ですが、本当の保養にはなりません。ただ心の保養には少しなりませんが、たまたま福島の子ども達のためにとやってみようという結論に至りました。自分も元気な気持ちで夏休みが過ぎました。おかげです。本当にありがとうございました。

